



## 山県市の未来に期待して

高富中学校 1年 杉山 奈央莉

山県市が好きですか。これからますます山県市に住み続けたいと思いませんか。

利平栗・桑の木豆、石田川の蜚土岐氏・大桑城、ハヤシライス、ナツチョルくんと言県さくら。これらはすべて、山県市の魅力です。私はこんな魅力いっぱい山県市が大好きです。将来もずっとずっと、この山県市に住み続けたいと思っています。でも、今、少し不安があります。それは、

二万八千七百九十八、二万八千三百。この二つの数字を見たことがありますか。これは平成二十七年・二十八年の一月一日現在の山県市の総人口です。二つの数字の差はマイナス四百九十八。この一年間に山県市の人口は四百九十八人も減少しています。この一年間に亡くなった人は三百四十七人、赤ちゃんの誕生は二百二十一人、その差はマイナス二百二十六。この出生数が死亡数を下回る自然減二百二十六人を除いても、二百七十二人も市民が、この一年間に山県市から出て行ってしまったことになりました。

今年の春、家族で美山地域を通り根尾の淡墨桜を見に行きました。谷合から根尾に抜ける道はよく整備され、木々の緑は鮮やか、桜の花も咲き、快適なドライブでした。でも、谷合・葛原、そしてその奥の地域には空き家が目立ちました。長く人が住まず、屋根が崩れかけた家も見かけました。人口の減少は、山県市の奥ほど激しく、その影響はすでに出始めています。まだ、その地域に人が生活しているのに。そこに住む人の気持ちを思うと、暗い気持ちになりました。

総人口が減少している山県市の現状を見た時、空き家が目立つこの状

況は、けっして一部の地域だけの問題ではありません。このまま人口の減少を止められなければ、いずれは山県市全域に空き家が目立つ。そんな日が必ず来るのではないのでしょうか。そう思うと、とても不安です。

そこで、私は次のような提案がしたいです。それは、山県市に市外からたくさんの方が集まる、市内の人がたくさんそこで働ける、山県市の魅力ある自然を活かした施設、「みのやまがた自然動物園」を市内につくるということです。小学生の頃に家族で行った、ひるがの高原にある牧場施設・静岡県掛川にある花と鳥のテーマパーク。どちらも、駐車場は車がいっぱい、観光バスも停まっています。中に入ると、たくさん観光客と働く人たちの姿がありました。観光客はみんな笑顔、働く人たちもみんな元気、みんな笑顔でした。山県市は昨年十二月に名駅に山県市広報分室を開設し、市の魅力や取組を名古屋圏に発信し始めました。私はこの施設から私が提案する「みのやまがた自然動物園」をメインに山県市の魅力をPRすれば、必ず市外から人が集まる、山県市を知り、その魅力にひかれて山県市に移住する人も増えると思います。三年後は、東海環状自動車道高富ICも完

成します。

この施設のことを思う時、私には高富ICを降りるたくさん観光客、山県市の魅力に触れて楽しく遊ぶたくさん家族連れの笑顔、元気に働くたくさん市民の姿が思い浮かびます。その施設の近くにはきっと地域の特産品を売るたくさんのお店もできるでしょう。

「みのやまがた自然動物園」が現実になれば、山県市の未来への可能性は無限に広がります。私は山県市に期待しています。将来も山県市に住み、山県市の発展のために働きたいと思えます。

地域の誇り、伝統行事を

私は伝えたい

美山中学校 3年 服部 滯花

私が住んでいる地域、柿野は、山ばかりで店も無く、不便だと感じることは、たびたびです。その一方で、伝統やお祭り、そして行事を大切にしている地域を、誇りに思います。実際に地域の伝統行事に参加し、感じたこと、考えたことをお話しします。

まず、柿野祭りです。これは、四月の第二日曜日に行われる鎌倉時代から続く祭りです。垣野神社と清瀬神社の神様がお旅所という所で出会



います。その場に作られたステージで、神様のために巫女が踊ります。私は、その巫女を務めたのです。夏にも行事がありますが、私たちの地域は、神様をとて大切にしています。大人にもいろいろな役があり、地域が神様とともに歩んできたことが伝わってきます。

次に、柿野神楽です。「巡礼」という、ある物語を複数の人が演じるものです。長いものですから、祭りでは一部だけを披露します。全部を演じるのは、老人ホームや花咲きホールで開かれる催しの場です。ふるさと栗祭りでも演じたこともあります。

私は女の子の役を演じました。まず、とても長い文を覚えなくてはなりません。その言葉は、昔から受け継がれてきたものですから、なじみの無い言葉であふれています。文字も昔のもので難しい。発音にも手こずります。踊りも細かい所作が求められる。表情も豊かに付けなければいけません。実に大変です。

しかし、大きなホール、祭り、そして老人ホームでの発表が終わると、私たちを見ていてくれた人たちが、笑顔で話しかけてきてくれたり、握手をしてくれたりします。

練習のたびに「やめたい」「めんどくさい」と何度も思いましたが、私

が踊ることでも多くの人が笑顔になってくれます。これも地域の行事があればこそです。やはり、こういう伝統行事は、地域の誇りだと思います。

しかし、少子高齢化の影響は、私の地域にもはつきりと表れています。伝統を受け継ぐ子供たちがいなくなってきたのです。柿野神楽でも、わざわざ各務原の子供も演じるために来てくれています。周りには、実際に子供は少なく、おじいさん、おばあさんばかりです。

私が卒業したのは、美山小学校ですが、二年生までは乾小学校でした。私がいた頃は、全校児童が四十人ちょっとでした。地域の唯一の小学校だった乾小学校も、今はありません。昔は、柿野小学校もあったのですが、今では、夢のような話です。

たった二年しか通っていない学校ですが、思い出のある学校がなくなつたのは、とても悲しいことです。遊具も無くなり、草が伸び放題になった学校の跡は、寂しい場所になってしまいました。こんな悲しい話は、繰り返したくありません。

とはいっても、現状を簡単に変えられるわけでも無いことは事実です。しかし、地域の魅力を知ってもらうためにも、伝統行事を多くの人に知ってもらうのが、一番だと考え

ました。自分の代わりがないのなら、自分が踊ればいいのだと思いたした。

祭りには、カメラマン、ビデオ撮影をする人、取材に来る人がいます。私は、そういうときが、地域の魅力を大勢の人に知ってもらおうチャンスだと思い、来てくれた人たちに、美山のことをたくさん話しました。人は減ってきているけれど、伝統が、次へとつながっている姿を見てもらおうとしました。

私は、柿野神楽も巫女も経験した先輩として、次に演じる子供たちに教えています。踊る人がもし足りなかったら、踊るつもりです。それは、多くの人の笑顔を見ているからです。

地域が寂しくなっていくという事実を目を向けながら、その一方で、伝統を次へとつなごうとしている私たちが、知ってもらおうと思います。伝統行事は、地域の誇りです。